



いつでもそこに星はある

# 天文文化学とは(1)

Invitation to cultural studies of astronomy



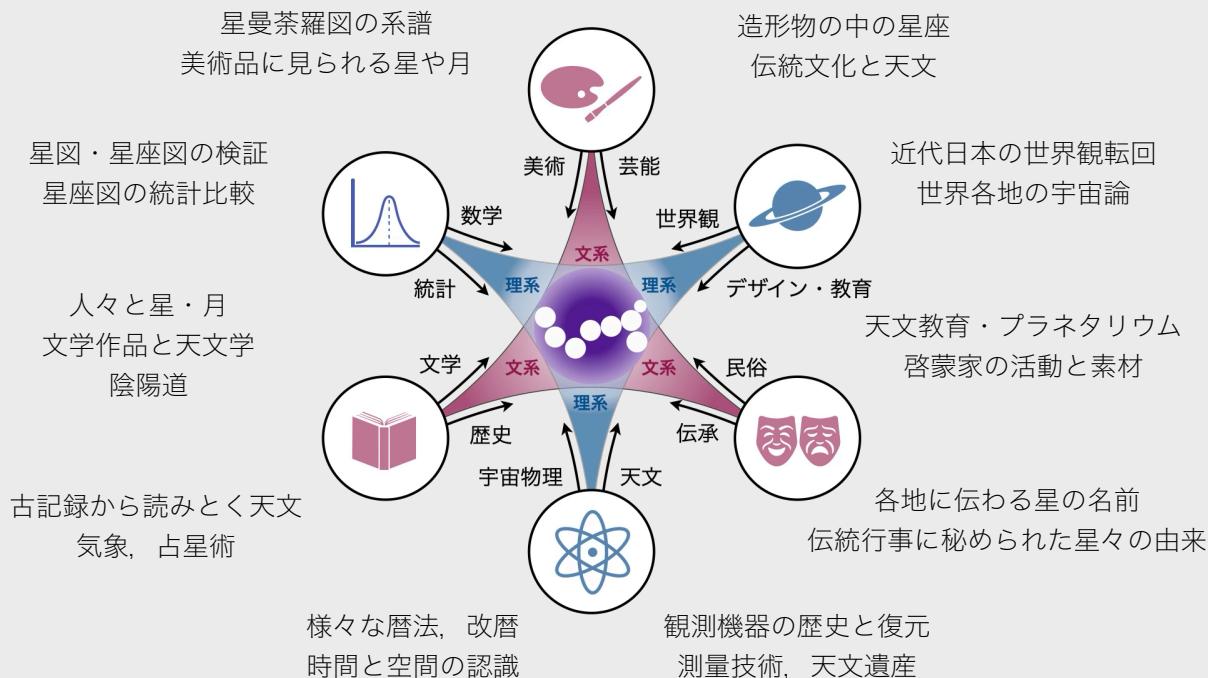
大阪工業大学の各学部に散らばる文系・理系の教員有志が始めた「天文文化学」創始/展開の活動を紹介します。

この学問は、広い意味での文化史と科学史の融合を目指す複合領域として、絵画や造形物など人間が生活の中で作り出したあらゆる文化遺産とその創作活動全般を研究対象とします。そして、天文を軸に据えた時間と空間への意識を見直し、科学や文化の目的を再認識しようとする活動です。

## ● 文理融合から文理協働へ

文系理系の垣根を超えて、総合的に理解を進めようとする私たちの姿勢を曼荼羅図にしてみました。

次のパネルから、私たちが年に2回ほど開催してきた研究会での講演項目を紹介しますが、最近の研究をカテゴリー別に分けると次のようにになります。



## ● ご興味をお持ちの方、メーリングリストにご参加ください

- ・研究者、学生、一般の方、いろいろな方と情報共有するメーリングリストを設けています。
- ・年に2回、研究会を開いています。

## ● より詳しくは、天文文化学ホームページへ

<https://www.oit.ac.jp/labs/is/system/shinkai/tenmonbunka/>

(配布しているリーフレットにもQRコードがあります)





いつでもそこに星はある

# 天文文化学とは(2)

Invitation to cultural studies of astronomy

## ● 論考集

私たちの発行する論考集は、縦書きと横書きの両方があり、編集者泣かせでした。左右から読み進められる不思議な仕様です。ぜひ本屋でご覧ください。

**『天文文化序説 --分野横断的にみる歴史と科学』** 松浦清・真貝寿明 編  
 (思文閣出版, 2021年12月, ISBN 978-4-7842-2020-5)

『天文文化序説』の刊行に際して (松浦 清)

Part1: 絵画作品にみる天文

- 愛染明王と星宿—香雪美術館蔵「愛染曼荼羅図」について— (郷司泰仁)
- 庚申信仰と中世の青面金剛画像 (石田 淳)
- 久保田桃水〈雪之図〉の写生的風景—月を描く絵画の構図に見る時間解釈を中心に— (松浦 清)
- 研究ノート 東東洋筆「河図図」についての考察—養賢堂学塾・大槻平泉の講堂建築構想と絵師・東東洋の画業における位置付け— (寺澤慎吾)

Part2 文学・信仰としての天文

- 日本神話の星—聖なる中心を表わす北極星、天空神伊邪那岐命の太刀が星座となった天之尾羽張神— (勝俣 隆)
- 記紀神話に見られる星の神—経津主神考— (西村昌能)
- 日本古代の星辰信仰—文献・出土資料からの検討— (山下克明)
- 『恋路ゆかしき大将』巻一の制作背景をめぐって—法輪寺と「星の光」詠を手がかりに— (横山恵理)
- 江戸・明治の科学書を中心に見た双子宮の名称と定着 (米田達郎)
- 研究ノート 巨石と天文現象—アステリズムを探して— (神羽麻紀)

Part3: 近現代科学でとらえる天文

- 近代物理学との邂逅—麻田剛立、木本良永と志筑忠雄— (真貝寿明)
- 宇宙物理学で見る宇宙と人類の地平 (鳥居 隆)
- コラム 超新星出現の目撃者 (作花一志)
- 人々は空を見て何を思うか—天文と歴史を科学コミュニケーションでつないで考える— (玉澤春史)
- 天文文化学の目指すもの—理系出身者の視点から— (真貝寿明)

**『天文文化学の視点 星を軸に文化を語る』** 松浦清・真貝寿明 編  
 (勉誠社, 2024年10月, ISBN 978-4-585-32542-0)

序 「天文文化学」という複合領域を楽しむために (松浦 清)

I 絵画・文学作品にみる天文文化

- 原在明《山上月食図》(個人蔵)の画題について (松浦 清)
- 一条兼良がみた星空—『花鳥余情』における「彦星」「天狗星」注をめぐって (横山恵理)
- 「軌道」の語史—江戸時代末以降を中心に (米田達郎)

II 信仰・思想にみる天文文化

- 銅鏡の文様に見られる古代中国の宇宙観—記紀神話への受容とからめて (西村昌能)
- 天の河の機能としての二重性—境界と通路、死と復活・生成、敵対と恋愛の舞台 (勝俣 隆)
- 南方熊楠のミクロコスモスとマクロコスモス—南方曼荼羅の世界観 (井村 誠)

III 民俗にみる天文文化

- 奄美与論島における十五夜の盗みの現代的変容をめぐる—考察 (澤田幸輝)
- 天文文化学から与那覇頭豊見親の一りを考える (北尾浩一)

IV 中世以前の天体現象と天文文化

- 天命思想の受容による飛鳥時代の変革—北極星による古代の正方位測量法 (竹迫 忍)
- 惑星集合と中国古代王朝の開始年についての考察 (作花一志)
- 丹後に伝わる浦島伝説とそのタイムトラベルの検討 (真貝寿明)

V 近世以降の天体現象と天文文化

- 1861年テバット彗星の位置測量精度—土御門家と間家の測量比較を中心に (北井礼三郎・玉澤春史・岩橋清美)
- 日本に伝わった古世界地図と星図の系譜 (真貝寿明)
- あとがき 天文文化学を進める上で見えてきたもの—理系出身者の視点から (真貝寿明)

## ● 研究班メンバー

松浦清	(大阪工業大学 工学部)	清水健	(東京国立博物館)
岩橋清美	(國學院大学 文学部)	真貝寿明	(大阪工業大学 情報科学部)
井村誠	(大阪工業大学 知的財産学部)	玉澤春史	(東京大学/京都市立芸術大学)
嘉数次人	(大阪市立科学館)	鳥居隆	(大阪工業大学 R&D工学部)
株本訓久	(武庫川女子大学 社会情報学部)	横山恵理	(大阪工業大学 情報科学部)